

他機関と連携した展示・教育普及事業紹介

相模原市立博物館 学芸員 木村 弘樹

1. はじめに

令和元年度末頃から猛威をふるい始めた新型コロナウイルスの影響により、全国的に施設の休館や各種イベントの中止などが余儀なくされた。多くの博物館においても集客事業の中心であった講座・講演会・体験事業などが実施できなくなり、開催したとしてもそれらは主に動画配信などでの実施となった。

筆者が勤務する相模原市立博物館においても同様で、緊急事態宣言中の休館及び講座・講演会・体験事業ができない中、休館明けの目新しさ及び現状で来館者にできる普及事業としてミニ展示などを充実して開催することに取り組んだ^(注1)。こう

したミニ展示は、学芸員が自らの研究成果を発表しているもののほか、近年の当館の特徴としては様々な機関、しかもこれまで博物館とは関わりが少くない機関と連携して開催していることが多い。

本稿では、こうした他機関と連携して開催した企画展やミニ展などの普及事業を紹介していきたい。

2. 近年の相模原市立博物館における他機関との連携普及事業

令和2年度及び同3年度の上半期において、当館で開催した他機関と連携した主な普及事業は、表1のとおりである。

表1 相模原市立博物館における令和2年度・3年度の他機関との連携事業

年度	事業名	連携機関
令和 2年	企画展 無量光寺文書・山崎弁栄遺墨展	光明学園相模原高等学校・相模原光明会他
	ミニ展示 東京2020公式アートポスター展オリンピック版	市オリンピックパラリンピック推進課
	ミニ展示 東京2020公式アートポスター展パラリンピック版	市オリンピックパラリンピック推進課
	ミニ展示 わおな生き物フォトコンテスト写真展	(公財)日本自然保護協会・ソニー(株)
	小惑星探査機はやぶさ2マンホールの設置	市下水道部
	企画展 「はやぶさ2」帰還カプセル世界初公開展示	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 市観光シティプロモーション課
	コラボ衣装展「わ！」	相模女子大学
	ミニ展示 ミニ下水道ワールド～まんほーる編～	市下水道部
令和 3年	小惑星探査機はやぶさ2マンホールカードの配布	市下水道部
	企画展 相模原にオリンピックがくる	市オリンピックパラリンピック推進課・スポーツ推進課
	企画展 軍都さがみはら展～国内最大の町 誕生物語～	市公文書館
	企画展 わおな生き物フォトコンテスト写真展	(公財)日本自然保護協会・ソニー(株)
	企画展 相模原と月	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
	相模線開業100周年記念ミニ展示	市交通政策課

*事業名についてサブタイトル等は適宜省略した。

*連携機関については共催、協力など様々だが、単なる資料の借用や提供ではない。

上記が他機関との連携事業であるが、この中で国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（以下「JAXA」という）との連携企画展は、当館がJAXAのそばにあり、さらにプラネタリウムを持つ当館の特徴的な企画展として継続開催している（写真1）。

また、（公財）日本自然保護協会・ソニー(株)と連携の「わおな生き物フォトコンテスト写真展」は、当館の生物分野の学芸員が脳科学者 茂木健一郎氏とともに審査員を務めていることもあり、令和元年度から継続している連携事業である（写真2）。

上記の2つの連携事業は、当館の地の利や学芸員の人脈により恒例となったものであるが、次に本題であるこれまで博物館とは関わりが少ない機関との連携事業について紹介したい。

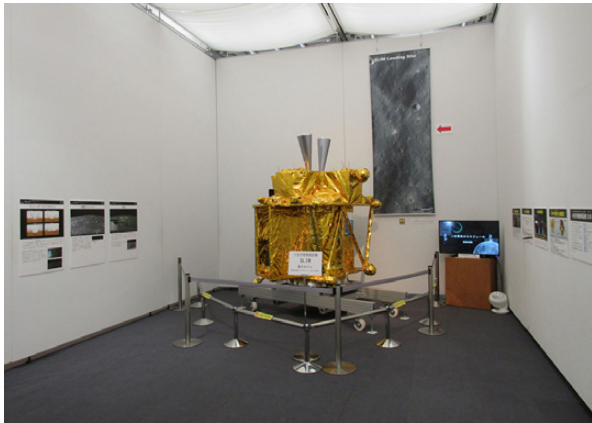


写真1 JAXA連携企画展「相模原と月」



写真2 わおな生き物フォトコンテスト写真

3 博物館とは関わりが少ない機関との連携事業

①企画展 無量光寺文書・山崎弁栄遺墨展（令和2年9月19日～11月15日）

本企画展は、本市南区の時宗寺院無量光寺の61

世住職で、市内初の私立学校である現「光明学園相模原高等学校」（以下「光明学園」）の創立者山崎弁栄上人の没後100年を機に開催した企画展である（写真3）。この企画展は、光明学園に山崎弁栄上人の遺墨が多数寄贈されたことを受け、相模原光明会から当館に企画展開催の相談があったことが契機で、当館ではさらに山崎弁栄に関連する無量光寺の中世文書など貴重な文化財を紹介する内容を盛り込んだ企画展として開催した。

光明学園や相模原光明会等からは、多くの山崎弁栄資料の提供のほか、ポスター・チラシの作成・配布、解説パネル・キャプション原稿の作成、解説動画出演など多大な役割を担っていただいた。本展示は、当初、言わば持込み企画であったが関係機関と協議を重ね、学芸員がコーディネートし、貴重な文化財を紹介する連携企画展となった。



写真3 無量光寺文書・山崎弁栄遺墨展

②小惑星探査機「はやぶさ2」デザインマンホールの設置（令和3年2月12日）とマンホールカードの配布（同4月25日～）

市下水道部では新たなデザインマンホールの製作を行っており、小惑星探査機「はやぶさ2」のイラストの入ったデザインマンホール2種を作り、1枚が当館敷地内に（写真4）、もう1枚が当館やJAXA最寄りのJR横浜線淵野辺駅前に設置された。

また、市下水道部では新たに小惑星探査機はやぶさ2デザインのマンホールカード（写真5）1種を作成し、協議の結果、当館がその配布場所となった^{（注2）}。マンホールカードの配布は現在も継続中で、10月末現在で6595人もの方がカードを受け取っている。

下水道と博物館という異色の組合せが、マンホールを通してカード配布などの事業で連携し、当館としては新たな来場者の獲得や、宇宙に興味・

関心を持つ方への効果的なPRができた。



写真4 はやぶさ2デザインマンホール



写真5 マンホールカード

③コラボ衣装展「わ！」（令和3年3月23日～5月16日）

本ミニ展示は、本市南区にある相模女子大学の生活デザイン学科との連携事業で、学生が「歴史」、「民俗」、「生物」、「地質」のテーマにあわせて制作した衣装の展示を開催した（写真6）。「わ！」には感嘆詞の「わ！」や、和風の「和」などの意味が込められている。

本来、この連携は衣装展ではなくプラネタリウムの多目的利用を図る目的で、プラネタリウム内でファッションショーを行えないか計画していたものであった。残念ながら集客イベント実施が難しい中、ファッションショーに代わるものとして衣装展の開催となったが、博物館と関わりが少ない大学生及び地元大学との貴重な連携となった。



写真6 コラボ衣装展「わ！」

④ミニ展示 ミニ下水道ワールド

～まんぼーる編～（令和3年3月23日～5月16日）

本ミニ展示は、前記②の事業に関連し、市下水道部の若手職員チームから、下水道普及のための展示に関する相談があったことが契機であった。

協議の結果、当館内で市内のデザインマンホールの紹介を中心としたミニ展示を市下水道部と当館の共催で行うことになり、学芸員がデザインマンホールの図柄になっている建造物や動植物の解説原稿を作成したり、展示指導を行うなど協力してミニ展示を開催した（写真7）。



写真7 ミニ下水道ワールド～まんぼーる編～

⑤ 企画展 相模原にオリンピックがくる（令和3年5月22日～7月4日）

令和3年は東京2020オリンピック・パラリンピックイヤーであった。他の博物館でも関連企画展として、主に昭和39年（1964）の東京オリンピック関連の資料展示などが行われた。

当館でも企画展「相模原にオリンピックがくる」を開催した（写真8）。この展示では昭和39年の東

京オリンピック関係資料のほか、ゾーニング的にはむしろ東京2020大会関係の展示を広く行った。具体的には、市オリンピック・パラリンピック推進課から本市内がコースの一部になっている自転車ロードレースや事前キャンプを行ったチームのポスター、映像、ユニホーム、記念グッズなどを、市スポーツ推進課から市ゆかりの出場内定選手の情報、写真、サイン色紙などの提供を受けた。

その結果、東京2020大会のPR、市ゆかりの選手紹介を行うことができ、またポスターや聖火リレートーチの展示、関連グッズの配布など、大会の機運醸成に大いに貢献できた。



写真8 「相模原にオリンピックがくる」

⑥ 企画展 軍都さがみはら展～国内最大の町誕生物語～（令和3年7月17日～8月5日^{注3}）

本企画展は、本市が昭和12年（1937）の陸軍士官学校移転を契機に陸軍施設が次々と移転・建設されたことで軍都と呼ばれ、町村合併で当時国内最大面積の町「相模原町」が誕生したことを紹介する展示であった（写真9）。

この展示では、市公文書館所管の「旧村役場資料」を多く展示したが、この「旧村役場資料」については、令和2年度末まで博物館所管資料であったものが、令和3年4月1日付で公文書館所管資料となった^{（注4）}。そうした関係もあり、初めて博物館と公文書館の連携企画展として開催し、文書資料調査・選定、解説パネル・キャプション作成などを公文書館職員と協働で行った。

歴史分野においては、「旧村役場文書」ほか公文書館所管の歴史的公文書を調査や展示で活用することが多いことから、今後さらに公文書館との連携は必要になってくる。その手始めとして、今回の企画展が開催できたことは良いきっかけになっ

たと考えられる。



写真9 「軍都さがみはら展」

⑦ 相模線開業100周年記念ミニ展示（令和3年8月1日から10月31日^{注5}）

本ミニ展示は、令和3年が大正10年（1921）の相模線開通から100周年、昭和6年（1931）の市内延伸から90周年、平成3年（1991）の車両のディーゼルから電化30周年を記念し、市交通政策課と連携して開催したものである（写真10）。

ミニ展示では、市交通政策課が窓口となりJR東日本、市内の鉄道愛好家・団体から借用した写真の展示、絵画などを収蔵する市民ギャラリーによる駅舎の絵画展示のほか、当館からは市内延伸時の観光パンフレットなど歴史資料を展示した。

当館だけでは収蔵品が少ない相模線に関する展示を市交通政策課と連携し、さらに他機関の協力を得ることで、多くの来館者が関心や親しみのある鉄道に関する展示ができたことは大変効果的な事業であった。

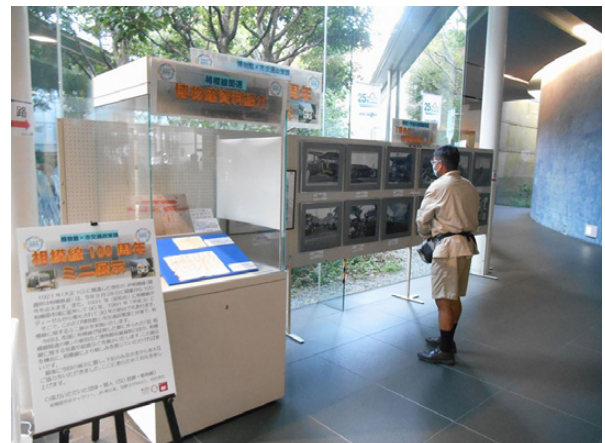


写真10 相模線100周年記念ミニ展示

4 おわりに

本稿では、近年の相模原市立博物館における他機関と連携した展示・教育普及事業について記した。各事業における記載でも多少記したが、他機関との連携事業の当館におけるメリットは次の点が挙げられる。

- ① 館蔵品だけでなく、連携機関またはそこを窓口 to 外部の資料展示が可能であること。
- ② 日ごろ博物館には関心が少ない客層の来館が期待できること。
- ③ 広報などを博物館と連携機関双方で行うことでより広範囲に周知が行えること。
- ④ 連携機関と業務を分担することで担当学芸員の業務量を軽減できること。
- ⑤ 連携機関と経費を分担することで事業経費が縮小できること。

一方、連携機関においては、上記の③、④、⑤のほか次のメリットが挙げられる。

- ① 発信していきたい事業を展示という形で実現できること。
- ② 当館と共催という形なので会場使用料がかからないこと。
- ③ 学芸員による展示の指導・協力・ノウハウを得られること。

課題としては、学芸員のコーディネート、調整能力が必要となってくることであろう。来館者に

「なぜこのような展示を博物館でしているのか」と疑問を持たれてはならないし、インパクトとしてあえて疑問を持ってもらう仕掛けにしたとしても展示をみることで目的・趣旨を理解してもらうことが必要である。そのため、学芸員は市立博物館の普及事業としてふさわしいかを判断し、またそれが効果的な展示になるよう調整とコーディネートしていかなければならない。

新型コロナウイルスの影響は今後もしばらく続き、博物館においてもコロナ禍以前のような普及事業を開催できるようになるのはまだしばらく先になるであろう。当館においても引き続き普及事業の中心は展示が中心とならざるを得ないと考えている。

そうした中、他機関と連携した普及事業は相互にメリットがあり、今後も各種機関や団体などから相談のあることが予想される。また、当館としてもアンテナを広げ、情報を入手して効果的な連携事業を引き続き企画、開催していきたい。

注

- (1) 相模原市立博物館 2021 『令和2年度 相模原市立博物館年報』
- (2) 本市内では3種のマンホールカードがあり、市下水道経営課窓口、相模湖観光案内所、相模原市立博物館が各1種ずつ配布場所となっている。
- (3) 当初会期は8月29日までだったが緊急事態宣言発出により8月5日で閉会した。
- (4) 「旧村役場資料」3,877点が、令和3年4月1日付で公文書館に移管された。ただし、収蔵場所については温湿度管理されている博物館内の収蔵庫に保管している。
- (5) 当初会期は9月26日までだったが緊急事態宣言発出中の休館があったため10月31日まで延長した。